

吸虫管を用いたアザミウマ類における簡易薬剤感受性検定手法の開発

—薬剤感受性検定容器の保存性の検討について—

中井 清裕¹⁾・相澤 美里²⁾・森 充隆¹⁾

香川県農業試験場研究報告 第70号 (2019年3月) 59-63

ガラス製吸虫管の内部に寒天をコーティングしたアザミウマ類に対する薬剤感受性検定容器（以下簡易検定キット）において、内部の寒天に糸状菌が発生し、保存性に問題が生じた。そこで、糸状菌発生防止対策と簡易検定キットの保存性について検討を行った。簡易検定キット内部の寒天に発生した2種の糸状菌に対する各種薬剤の菌糸伸長抑制効果について調査した結果、寒天へのイミノクタジン酢酸塩 100ppm の添加が高い菌糸伸長抑制効果を示した。また、イミノクタジン酢酸塩 100ppm を添加した寒天を内部にコーティングした簡易検定キットを 5°C で保存した場合、180 日後でも糸状菌の発生は認めなかった。さらに、イミノクタジン酢酸塩 100ppm を寒天に添加した場合でもヒラズハナアザミウマの生存率に影響を与えなかった。以上の結果より寒天へのイミノクタジン酢酸塩 100ppm の添加が簡易検定キットの保存性向上に有効であることが明らかとなった。

キーワード：アザミウマ類，感受性検定，モニタリング，

